

会 議 録

会議の名称	平成 29 年度第 1 回茨木市文化振興施策推進委員会
開催日時	平成 29 年 7 月 4 日 (火) (午前 午後 1 時 30 分 開会) (午前 午後 3 時 30 分 閉会)
開催場所	市役所南館 8 階 中会議室
議 長	出口委員 (委員長)
出席者	飯嶋委員、大西委員、川本委員、木村委員、栗本委員、出口委員、山野委員 【7人】
欠席者	雨森委員、池上委員 【2人】
事務局職員	文化振興課関係 田川市民文化部長、小田市民文化部理事、庄田文化振興課長、 寺田文化振興課長代理、田中文化振興課振興係長、川寄文化振興課職員 政策企画課関係 秋元企画財政部長、小西政策企画課長、向田政策企画課参事、 川嶋政策企画課職員 【10人】
開催形態	<input checked="" type="checkbox"/> 公開 / 非公開
議題 (案件)	市民会館跡地活用 コンセプトと敷地の考え方について
配布資料	(1) 次第 (2) 委員名簿 (資料 1) (3) 市民会館跡地活用 コンセプトと敷地の考え方について (中間報告) (資料 2)
傍聴人	1 人

議 事 の 経 過

発言者	議 題 (案 件) ・ 発 言 内 容 ・ 決 定 事 項
<p>出口委員長</p>	<p>1 開会 ただ今から、第1回茨木市文化振興施策推進委員会を開催する。 最初に、委員の解囑・委嘱及び本日の出席状況を事務局から報告をする。</p>
<p>庄田文化振興課長</p>	<p>委員の解囑・委嘱について、報告する。 今年2月に開催した平成28年度第2回文化振興施策推進委員会をもって、元関西大学の森教授が委員を辞退し、新たに雨森委員を委嘱した。雨森委員は、大阪市のアート事業Breaker Projectのディレクター、大阪市立大学都市研究プラザ特別研究員、成安造形大学客員准教授を務めている。なお、本日は所用により、欠席する旨の連絡を受けている。 また、池上委員から欠席する旨の連絡を受けており、委員の出席状況について、全委員9人のうち本日出席の委員は7人で、過半数以上の委員が出席しており、茨木市文化振興施策推進委員会規則第6条第2項に基づき、会議は成立している。</p>
<p>出口委員長</p>	<p>2 議事 それでは、これより案件の審議に入る。 まず、案件について事務局の説明を求める。</p>
<p>庄田文化振興課長</p>	<p>本日の案件「市民会館跡地活用 コンセプトと敷地の考え方」については、担当部の秋元企画財政部長から説明する。</p>
<p>秋元企画財政部長</p>	<p>市民会館跡地活用に関する市の思いを伝えたい。市としてはシンボリックな思いが2つある。1つ目は福岡市政になり「対話による市政の運営」を重視しており、重要案件は市民と対話して決定していくことを基本理念としている。対話にあたっては、今まで行政にあまり参画する機会のなかった方から意見をもらうため、「たしか未来ミーティング」という仕組みを作り、無作為抽出のうえ、参加を募ったところ220名の登録があった。その第1弾として市民会館跡地活用をテーマに「市民会館 100人会議」を立ち上げた。昨年10月から半年かけて、10代から60代の各年代及び関係団体からそれぞれ10人ごとに10回集め、対話する場を設けた。このあと説明する中間報告は、この100人会議で大きくは成り立っている。 2つ目は、市民一人ひとりの豊かさを感じる場所の創出である。市政には福祉、教育、安全・安心のように、なくてはならない事業を推進する一方、今の時代において、市民それぞれが豊かさを感じる場も重要と福岡市政では考えている。それには、家庭、学校のほかに、個人それぞれが居心地の良い第3の場所、サードプレイスの展開が必要となる。市民会館跡地活用がそれを具体化する1つの取組となればと思っている。</p>

議 事 の 経 過

発言者	議 題 (案 件) ・ 発 言 内 容 ・ 決 定 事 項
向田政策企画課参事	<p>市民会館跡地活用が、市政の中で成し遂げたい2つのことを担っている大きな事業と位置付けており、より良いものとするために委員の皆さまから意見をいただきました。</p> <p>そのうえでまとめた中間報告の内容を政策企画課参事の向田から報告する。</p> <p>本日の案件「市民会館跡地活用 コンセプトと敷地の考え方」について説明する。</p> <p>【「市民会館跡地活用 コンセプトと敷地の考え方について」説明】</p>
出口委員長	<p>説明は終わりました。市民会館跡地活用を検討するにあたって、ドイツで発達した地方自治のプランnungスツェレという手法を用いている。この手法は多くの人から多種多様な意見が出るため、まとめるのが非常に難しいが今回は地方自治のモデルに成りえるぐらいうまくまとめていると感じた。本日は特に何か決めるわけではなく、委員全員から忌憚のない意見を伺いたい。</p>
木村委員	<p>大変よくまとめられていると思う。インキュベーションは卵みたいなもので、交流することによって何かが生まれるということを私は提唱していた。この中間報告では、ホールの機能と人々の交流の2点が入り入れられていて非常に良い印象を受けた。かつて美術館建設の構想があったが美術協会の会長として、美術協会総会で会員には美術館建設の要求を出さないようにと伝えている。美術館は大阪市、京都市に任せて、茨木市の美術・文化は市民に根付いたものであった方がいいと考えている。この中間報告は非常によくまとまっていて、大賛成である。</p>
飯嶋委員	<p>100人会議のような取り組みは三鷹市でも400人ぐらい集めて、サイレントマジョリティーを拾っていた。この点は素晴らしい。ホールの機能、憩い、交流、子育ての4つの要素がでていますが、茨木の未来においてどのような性質のものにするかは今後より具体的になっていくと考えている。具体化していく中で、旧市民会館は老朽化、耐震性によって閉館し、文化の役目を終えたわけではないので、市民ホールがあってもしかるべきと考える。立命館のホールがあっても、そこを使えば良いという声もあるが、学校行事が最優先で利用日が限られている、利用料金が高い、駐車場がない、駐輪場に関しても様々な意見がある。また、料金が高いので、高槻など他市でイベントを行うと言っている団体もある。</p> <p>本日の会議については、ホールの跡地の話であるが、市民会館の閉館により、文化振興財団の活動の幅が狭くなっている現状があるので、ソフトについても同時に検討を進めて欲しい。</p>

議 事 の 経 過

発言者	議 題 (案 件) ・ 発 言 内 容 ・ 決 定 事 項
大西委員	<p>現在、文化振興財団では、福祉文化会館、市民総合センターで文化活動及び施設管理をしている。資料の「4 必要機能・施設構成のイメージ」「5 コンセプト及び機能を踏まえた敷地設定の検討」の部分について、文化振興財団職員の意見に私の考えも含めてお話しする。</p> <p>まず、新たな施設には旧市民会館が半世紀近く担ってきた役割を引き継ぎ、発展させ、茨木市をより魅力的なまちにしていく文化・芸術の拠点となる施設として欲しい。主な機能として、大ホールと多目的に使用できる平土間ホール、リハーサル室、音楽練習場、芸術作品の創作室、カフェ・レストラン、ギャラリーが備わっていることが望ましい。また、単独の施設が理想ではあるが、他の公の施設も入る場合は、出入口を別にするなど独立した機能を持たせて欲しい。</p> <p>それらを踏まえると資料31ページの「市民会館＋福祉文化会館＋人工台地＋中央公園南グラウンド」をエリアとした第2案を採用するのがいいと考える。第1案では、敷地に余裕がなく、文化芸術拠点として、先ほど述べた機能を備えることができないと想定される。第2案では完成まで福祉文化会館が使用できること、新たな施設の早期着工が可能であること、森の部分に建設した場合、グラウンド部分に余裕があり施設へのエントランス部と旧市民会館跡地と人工台地を含めて、憩いと賑わいのエリアを確保できることが理由に挙げられる。</p> <p>ただ、第2案では、ホールの舞台の奥の合同庁舎に消防本部が入っており、サイレンがホール等の利用にどのような影響を与えるかを懸念している。文化振興財団職員の中にも、グラウンドの必要性から第1案を推す声もあった。</p> <p>ホールの機能としては市民の利用のほか、プロによる公演の演出にも対応できる多機能なホールが望ましい。また、舞台の両袖には客席等の親近感がある花道、2階席の両サイドにオペラハウスにみられる棧敷席が必要と想定する。収容人数は1階800人、2階400人の1200人程度が適正と考える。また、1階のみの使用中ホールとしての使用も可能とし、利用料金を抑えることもできる。他には、能・狂言が出来る特色あるホールも必要という意見もあった。また、ハード的な整備とともにソフト面の検討も同時に進めて欲しい。</p>
栗本委員	<p>非常に良くまとまっている。最後に2つの具体的な案まで出していて、感心している。</p> <p>安全・安心の観点からみると被災時の避難場所となり、様々な情報が入手できる機能を担う中核と成りうるエリアであると感じる。資料「5 コンセプト及び機能を踏まえた敷地設定の検討」でいうと第2案の方がより感じられる。検討にあたっては安全・安心に留意しながら進めていただきたい。</p> <p>先ほどから意見が出ているが、施設を建設したあとにどう使おうか考えると使い方</p>

議 事 の 経 過

発言者	議 題 (案 件) ・ 発 言 内 容 ・ 決 定 事 項
<p>山野委員</p>	<p>としつらえに差異が出てくるので、ソフトとハードは同時に検討が必要である。説明の中で、マルシェ、賑わいという表現が出てきたが、年中やるわけではないので、何もイベントが無いときにどういった状態にあるのかも考えておくと良い。また、屋根があるところだけが発表の場ではないという考え方の元で緑の公園、グラウンドを活用する方法もあるのではと思う。加えて、雨が降った場合の案も用意しておくと良い。</p> <p>一方でホールは立命館のホールが随時、使えないということで市として建設して欲しいと思う。例えば、予算が多くある私立の学校が合唱コンクールをするときは、近隣市の良いホールを使用する。それを市のホールで行うということが文化振興や市への誇りに繋がっていく。</p> <p>ホールの規模については365日、誰がどのように使うのかニーズをとらえ、シミュレーションすることが求められる。</p> <p>参考となる事例として、宝塚市のガーデンフィールズ跡地活用が多目的なホールと緑の広場をどうしていくか3年後のオープニングに向けて進めているので、情報収集されてはいかがか。</p> <p>市民会館の跡地利用だけでなく、市中心部の再開発の位置付けとして考える必要がある。30年先、50年先を見据え、便利さを求めるだけでなく、今の子どもたちのために、精神的なものを求めることが重要である。</p> <p>ドイツでは緑と自然で心が安らぐまち並みとなっている。茨木市の中心部も茨木川がながれ、市民の散歩道となっている。南グラウンドの活用として、芝生、牧草が生え、中心部に樹を植えるとともに、北と南側をつなぐアーチ状の緑化したトンネルを作り、演奏もできるようにするなど、思い切った緑地公園とすることで50年先に非常に生きてくる。</p> <p>ホールは子どもたちの情操教育のために、音質の良い施設として欲しい。多機能は当たり前で、力量のある音楽家がここでしたいというようなホールで将来的には、市民の若手のオーケストラを作るなど、一つの大きな夢を掲げたホールができれば非常に嬉しい。</p> <p>まちに緑・自然・音楽・ギャラリー・図書館があった方がいい。また、市の中心部に大学があり、学生がまちにあふれているまちを目指して欲しい。</p>
<p>川本委員</p>	<p>意見をいう前に一つ伺いたい。資料3ページのアンケートで利用したことがあるというのは、ステージに上がったことがある人なのか、それとも鑑賞したことがある人のどちらであるか。</p>

議 事 の 経 過

発言者	議 題 (案 件) ・ 発 言 内 容 ・ 決 定 事 項
<p>向田政策企画課参事 川本委員</p>	<p>このアンケートではどちらも含めている。</p> <p>文化施設の管理運営を仕事でしており、その観点から見るとホールの座席数は、大きなイベントを実施する場合、いくらで回収できるかを考える。例えば、500万円で演劇を実施する場合、1,000席のホールであるとチケット1枚あたり5,000円で満席にしないと回収できない。興行目的とすると最低2,000席以上は必要となる。市のコンセプトとして、市民の利用をメインとするのか、市民の鑑賞をメインとするのか大事なところである。現在、箕面市の北大阪急行沿線新駅にPFI方式で新しいホールの建設計画が進んでいる。先に運営事業者を決め、その後建設業者を決める特殊な方式を取っている。その施設は、市民の鑑賞をメインとして、興行会社の利用を優先する条件で募集していると聞いている。茨木市の中間報告を見たところ、市民の利用をメインとして考えていると感じた。</p> <p>仕事では、文化施設の運営、舞台部分で携わっているのでそこに注目したい。舞台の大きさ次第で、間口が何間必要か、奥行きがどれくらい必要かというところが重要となる。例えば、音楽専用ホールにすると、バトンの数等の問題でバレエや演劇・オペラ等、大掛かりな舞台セットが組めないといった問題が起こる。</p> <p>ホールの利用状況では今までの経験上、どうしても土日の利用が多く、取り合いになる。平日の利用をどう増やしていくかが課題となる。平日は企業の講演会、説明会などの利用では500席前後が使い勝手が良いように思う。ホールを建てた後の利用率の改善はどの市でも課題となっている。</p> <p>どのエリアにするかによって、イベント時のトラックでの搬入が変わってくる。旧市民会館はトラックが入りづらかったように記憶している。大きな催しをする際には、大きなトラックが必要で、客の車と異なるルートが無いと搬入が難しくなる。この点から見ると、資料31ページの第2案だと市役所、業務スーパー利用者とルートが重なり、渋滞が懸念される。</p>
<p>出口委員長</p>	<p>各委員から意見を伺ったが、補足等あるか。</p>
<p>山野委員</p>	<p>阪急茨木市駅付近の現在、駐車場として利用している場所はアクセスがいいので、そこに建設することは可能であるか。</p>
<p>秋元企画財政部長</p>	<p>現在は公共目的で利用するという縛りが後数年ある。今は駐車場として利用しており、その後どう利用するかはまだ白紙である。今はお示したエリアでの検討を進めている。</p>

議 事 の 経 過

発言者	議 題 (案 件) ・ 発 言 内 容 ・ 決 定 事 項
飯嶋委員	<p>その場所は阪急茨木市駅に隣接し、交通の便が非常に良いので、あそこは集客力が高いエリアである。</p> <p>ホールの規模は 500 から 600 席が適正という話があったが、旧市民会館跡地は 1,200 人規模のホールが建つスペースがある。1,200 人規模のホールでは興行が難しいということであるが、大ホールは災害時の使用、市内全域の中学生、高校生が集まる発表の場など、興行目的だけではなく、文化を育み、心を育てる場であると考えている。</p>
小田市民文化部長	<p>ホールの規模は 500 席がいいのではないかと話があったが、参考までに茨木市には、生涯学習センターきらめきのきらめきホールが 478 席、市民総合センターのセンターホール・多目的ホールがそれぞれ 429 席・165 席、男女共生センターローズWAMのワムホールが 188 席、福祉文化会館の文化ホールが 347 席など、他にもホールがあるということを伝えておく。</p> <p>また、阪急茨木市駅東口については、この会の専門部会で審議し、いただいたご意見を一定まとめたものがある。それらも含め基本構想の中で旧市民会館及びその周辺施設、類似施設、先進施設についてまとめたものは、今回の市民会館跡地活用の検討に役立っている。</p>
栗本委員	<p>資料 28 ページ以降の 2 つの案のスケジュールはどのように考えているのか。</p>
秋元企画財政部長	<p>2 つの案ともに平成 35 年 4 月の供用を目標としている。第 1 案は解体のスケジュール次第では、少し工期延長のリスクがあると考えている。</p>
飯嶋委員	<p>この 2 つ案をみると中央公園北グラウンドがエリアの構想に入っていないのはなぜか。</p>
秋元企画財政部長	<p>地下に駐車場が入っている点から建設は不可能であると捉えている。</p>
飯嶋委員	<p>人工台地と北グラウンドのエリアに建設し、地下を全て駐車場にすることはできないのか。そのエリアにすると、建設中も福祉文化会館の活用が可能となり、ホールの数を維持できる。北グラウンドは不可能であるのは、地下駐車場があるからもしくは国所有でできないなど、どういった理由があるのか。</p>
秋元企画財政部長	<p>地下駐車場があるので工法が非常に難しいこと、コストも非常に掛かるので、エリア案には入れていない。</p>

議 事 の 経 過

発言者	議題(案件)・発言内容・決定事項
飯嶋委員	<p>これからも検討の余地はないのか。大ホールには地下駐車場が必要となるので、元々あるものを補強等で活用できれば、コスト削減できるのではないか。北グラウンドにテニスコートがあるので反対があったのかと考えたが、国所有であるから難しいなどの理由がなければ検討して欲しい。跡地だけを利用するとステージ、バックヤード、舞台、楽屋の広さを600から700席のホールしか建設できないので、子どもたちのことやまちのシンボルとなることを考えると1,200席のホールが欲しい。工法的に無理でなければ北グラウンドもエリアに入れることを検討して欲しい。</p>
秋元企画財政部長	<p>工法面、コスト面、スポーツの利用も含め検証するが、現状、色々踏まえて2つの案を提示していることは理解して欲しい。</p>
川本委員	<p>先ほど500席が望ましいと発言したが、補足すると座席数にこだわっているわけではない。間口の広さ、奥行き、袖のたまりなど大ホール並の舞台の確保を重視しており、例えば、1,200席にするために舞台を小さくするなら、1,000席にして舞台を優先して欲しい。500席が利用者にとって使いやすいという意味で発言した。</p> <p>資料27ページを見ると子育て支援をホールと同じ建物の中に入れるという認識でいいのか。</p>
秋元企画財政部長	<p>複合施設と捉えているので、同じ建物に入る。資料25ページからは機能のイメージで、サードプレイスは公園的な憩いの場で案として、図書館やカフェを挙げている。</p>
川本委員	<p>図書館とホールは相性が悪い。音や振動で図書館から苦情があることを懸念している。</p>
出口委員長	<p>全て委員の発言が終わった。最後に一言申し上げるとこの跡地活用は茨木だけでなく、北大阪、日本を代表するような空間に成りうるようなものができるように感じている。子育て支援では、例えば、子どもを連れて防音の部屋でコンサートを見ることはある意味でユニバーサルデザインと言えるのではないか。世界的に見ても素晴らしいということになれば、視察先としての需要も出てくる。差別解消法が施行され、目が見えない方、耳が聞こえない方への配慮をすることも文化の1つではないかと思う。</p> <p>さらにホールで鑑賞される人数より、建物を目で見える人数の方が圧倒的に多いことを踏まえると建物のデザイン性も大きな文化であるので、世界に冠たるものとして欲しい。しかし、デザインを重視すると財源はどうするのかということになる。大阪府・市では「副首都構想」の中で寄付金を大阪に集めようとする「フィランソロピー副首</p>

議 事 の 経 過

発言者	議 題 (案 件) ・ 発 言 内 容 ・ 決 定 事 項
	<p>都構想」を打ちだしており、様々なアイデアを出している。阪急茨木市駅とJR茨木駅のちょうど中央に位置しており、場合によっては茨木のエリアを変える大きな提案になるので、あらゆる手段を使って、将来あるべき理想を固め、そこから予算を獲得する考え方をしたい。財源から限定していくと虻蜂取らずとなることを懸念している。</p> <p>また、ドイツでは、自転車での活用が出て来ている、移動としてヒト・モノ・プラスアルファで考えると良いものができるのではないかと思います。</p> <p>あと美術に対して、美術協会が大人な対応をしていると感じた。私のイメージでは例えば野外彫刻を見て、良かった作品にカードをかざすと10円寄付するシステムなどが今後出来ると思う。自分の楽しかった気持ちを伝えられる仕組みが出来ると非常に良いのではと思った。</p> <p>最後に何か意見等はあるか。</p>
飯嶋委員	<p>ソフトの面から言うと、現在は文化振興財団が頑張っているが、これから出来る施設を運営する組織のあり方が重要となる。組織の構成員に求められる資質として、音楽だけでなく美術、演劇にも理解があり、横のつながりを持ちバランスのとれた芸術監督のような方を招聘してほしい。また、茨木を良くしようとする志が高く、若手を育てる気持ちがある方を良い待遇で迎え、未来に投資することで茨木の文化は発展していくと考える。</p>
木村委員	<p>美術協会は全然関わらないのではなく、ある程度のコンセプトができればそれに対して、美術のあり方を提案していく。</p>
出口委員長	<p>他に何か意見等はあるか。</p>
各委員	<p>【意見なし】</p>
出口委員長	<p>3 閉会</p> <p>それでは、本日の会議は、これをもって終了とする。</p>